おまえざきの人 きらり輝く人

若者のサポーター 赤堀 吉史さん

PROFILE

あかほり　よしひと（67・東町）
38年間教員を務めた後、「サンルーム」で４年間子どもたちを支援。その後、平成26年10月から社会福祉協議会で開催している無料相談の相談士を務める。

若者たちの力になりたい

全国では163万人がいるといわれているひきこもり。市内でひきこもりになってしまった人やその周りの人をサポートする「ひきこもり支援相談士」として活躍している赤堀吉史さん。

教員だった赤堀さんは、定年退職後、市の教育相談事業で運営している「サンルーム」で、不登校になった生徒と触れ合ったことから相談士の道へ。「生徒たちは、高校の定時制などを卒業後、就職できずにいた。就労相談があってもひとりでは行けない。今は共助の時代。その意味では今の子どもは弱く、サポートが必要だと思った」と語った。

また、赤堀さんは、平成25年に設立された若者の就労を支援する「地域若者サポートステーションかけがわ」へ登録したことも相談士になったきっかけだった。

相手に寄り添い対話を

「ひきこもりは誰かが作ったのではなく、社会が生んだ形だと思う。悪ととらえるのではなく、どう向き合い受け止めるかと考えてほしい。家族も決して自分たちの責任だと思わないでほしい。ひきこもりや不登校の若者たちと付き合う上でとても大切なことは意見などを押し付けたりするのではなく、一緒に寄り添ってあげること。伴走してあげることが大切だと思っている」と話す。

赤堀さんは、相談者に会えなくても就労の情報紙を届けるなど、地道な活動も続けている。

他喜力（たきりょく）

「子どもたちが喜んでくれるのはうれしい。自分の喜びより、他人を喜ばせることをしたいと思い、私にできることは何かと考えた。教員だった経験から、子どもたちと接する力を生かしたいと思った」と語る赤堀さん。「一人でも多くの人が自分に自信を持ち、自分は変われるのだと気づくきっかけを作りたい」と若者の未来を思いながら話す顔には、笑顔が絶えなかった。

次世代を担う若者たちが、自分らしく生きていくことができるよう、サポートしていく仲間が増えていってほしい。